

定期作況報告

平成29年9月
(9月20日現在)

北海道立総合研究機構 北見農業試験場

1. 気象経過

8月下旬：最高気温は平年よりやや高く、最低気温および平均気温はともに平年並であった。降水量は平年より少なかった（平年比32%）。日照時間は平年並であった（平年比90%）。

9月上旬：最高気温は平年よりやや低く、最低気温は平年より極めて低く、平均気温は平年より低かった。降水量は平年より少なかった（平年比17%）。日照時間は平年よりやや多かった（平年比125%）。

9月中旬：最高気温は平年より低く、最低気温は平年よりやや低く、平均気温は平年より低かった。降水量は平年より極めて多かった（平年比280%）。日照時間は平年よりやや少なかった（平年比69%）。

以上のことから、この1か月間（8月下旬～9月中旬）は、気温は平年よりやや低く、降水量は平年よりやや少なく、日照時間は平年並であった。

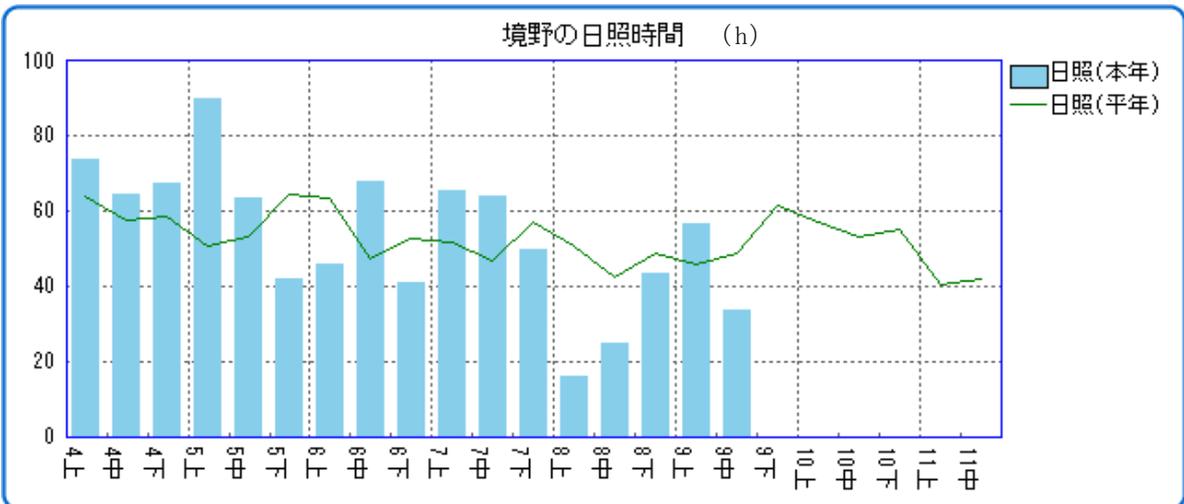
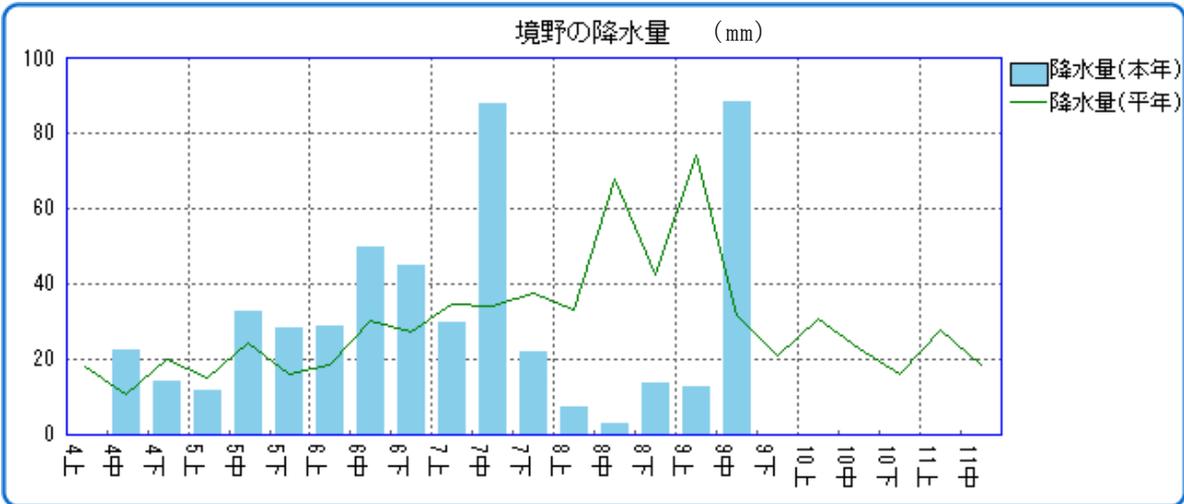
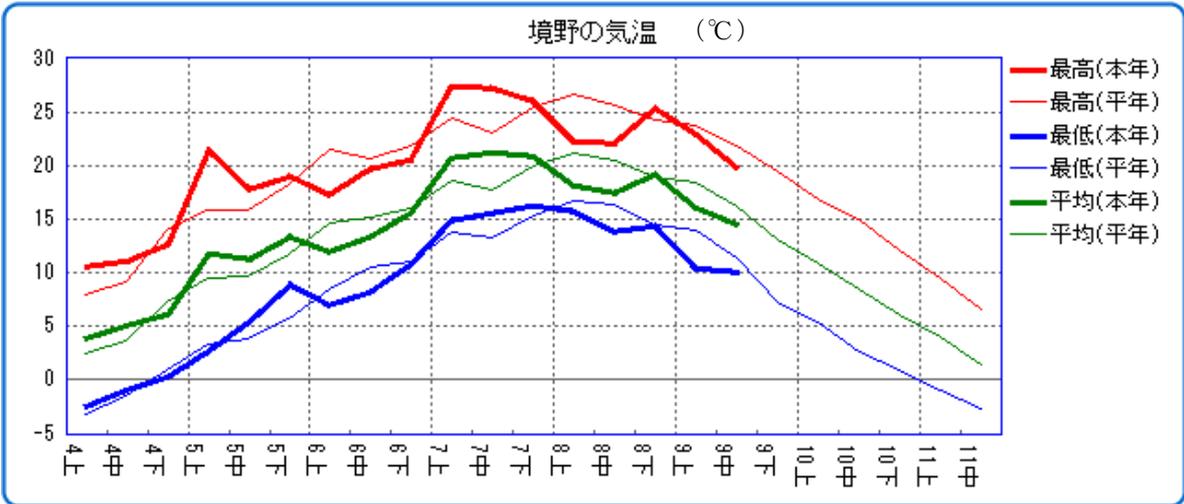
気 象 表

月 旬	平均気温(°C)			最高気温(°C)			最低気温(°C)		
	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較
8月 下旬	19.2	18.9	0.3	25.4	24.2	1.2	14.3	14.4	-0.1
9月 月上旬	16.1	18.5	-2.4	22.9	23.8	-0.9	10.4	14.0	-3.6
9月 月中旬	14.5	16.2	-1.7	19.9	21.9	-2.0	10.1	11.3	-1.2

月 旬	降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較
8月 下旬	13.5	42.6	-29.1	43.7	48.8	-5.1
9月 月上旬	12.5	74.1	-61.6	56.8	45.6	11.2
9月 月中旬	88.5	31.6	56.9	33.7	48.8	-15.1

注) 観測値は置戸町境野のアメダスデータである。

10年平均は前10か年間の平均値である。



2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立総合研究機構北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、オホーツク管内全体を代表するものではありません。

1) 春まき小麦 作 況：不良

事 由：7月16日の大雨によって両品種とも倒伏程度は甚となった（前報）。また、7月の気温が高かったことから、登熟期間は平年より短くなった（前報）。このため、子実重は平年比64～65%と低収で、リットル重と千粒重は平年を大きく下回った。

以上のことから、目下の作況は「不良」である。

調査項目	春よ恋			はるきらり		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
子実重 (kg/10a)	335	518	△ 183	333	517	△ 184
同上平年比 (%)	65	100	△ 35	64	100	△ 36
リットル重 (g)	731	806	△ 75	741	805	△ 64
千粒重 (g)	31.9	39.4	△ 7.5	34.9	41.4	△ 6.5

注) 平年値は前7か年中、平成22年(最凶)、27年(最豊)を除く5か年の平均。

2) とうもろこし(サイレージ用) 作 況：平年並

事 由：9月20日の稈長は平年を11cm上回っている。しかし、抽糸期後の8月上・中旬および9月上・中旬の気温が平年より低く推移したことから、登熟は平年よりやや遅れていると推測される。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	チベリウス		
	本年	平年	比較
稈長 (cm) (9月20日)	283	272	11

注) 平年値は前7か年中、平成23年(最豊)、25年(最凶)を除く5か年の平均。

3) 大豆

作 況：平年並

事 由：主茎長、主茎節数、分枝数はいずれも平年を下回っており、9月上旬以降の低温により登熟はやや遅れているが、着莢数は平年を上回っている。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	ユキホマレ		
	本年	平年	比較
成熟期 (月.日)		9.23	—
主茎長 (cm) (9月20日)	67.1	73.2	△ 6.1
主茎節数(節) (9月20日)	10.8	11.3	△ 0.5
分枝数(本/株) (9月20日)	4.3	5.5	△ 1.2
着莢数(莢/株) (9月20日)	77.3	68.6	8.7

注) 平年値は前7か年中、平成23年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

4) 小豆

作 況：不良

事 由：前報に引き続き、9月上旬以降も低温傾向で経過したため登熟は遅れており、「サホロシヨウズ」「エリモシヨウズ」とも成熟期に達していない。また、両品種とも生育および着莢数は平年を下回っている。

以上のことから、目下の作況は「不良」である。

調査項目	サホロシヨウズ			エリモシヨウズ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
成熟期 (月.日)		9.14	—		9.20	—
主茎長 (cm) (9月20日)	71.2	91.9	△20.7	63.1	79.4	△16.3
主茎節数(節) (9月20日)	12.2	14.3	△ 2.1	12.8	14.7	△ 1.9
分枝数(本/株) (9月20日)	2.8	4.4	△ 1.6	2.3	4.4	△ 2.1
着莢数(莢/株) (9月20日)	44.2	59.6	△15.4	45.5	59.6	△ 14.1

注) 平年値は前7か年中、平成23年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

5) 菜豆

作況：やや不良

事由：成熟期は平年より9日遅い9月7日であった。成熟期における草丈と主茎節数は平年並で、分枝数は多かったが、着莢数は平年を下回った。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	大正金時		
	本年	平年	比較
成熟期 (月.日)	9. 7	8.29	9
草丈(cm) (成熟期)	49.4	50.1	△ 0.7
主茎節数(節) (成熟期)	5.2	5.2	0.0
分枝数(本/株) (成熟期)	6.1	4.9	1.2
着莢数(莢/株) (成熟期)	17.2	21.0	△ 3.8

注) 平年値は前7か年中、平成23年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

6) ばれいしょ

作況：平年並

事由：「男爵薯」の枯ちよう期は、平年より8日遅い9月7日であった。8月上旬より気温が低く経過しており、「男爵薯」、「コナフブキ」とも上いも重は平年をやや下回っている。一方、8月上旬～9月上旬の降水量が少なかったことから、でん粉価は両品種とも平年より高く、「コナフブキ」のでん粉重は平年をやや上回っている。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	男爵薯			コナフブキ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
枯ちよう期 (月.日)	9.7	8.30	8		10.6	
上いも重(kg/10a) (9月20日)	4423	4613	△190	4600	4797	△197
でん粉価(%) (9月20日)	16.5	14.8	1.7	23.9	22.0	1.9
でん粉重(kg/10a) (9月20日)	—	—	—	1054	1011	43

注) 平年値は前7か年中、平成22年(最凶)、24年(最豊)を除く5か年の平均

7) てんさい

作 況：平年並

事 由：8月下旬の気温と日照時間が平年並となり、根重は回復傾向となったものの、9月上・中旬が低温に推移したため、依然として平年を下回っている。一方、根中糖分は、9月上・中旬の最低気温が平年より低かったため順調に上昇し、平年を上回っている。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	移植						直播		
	リッカ			アマホマレ			リッカ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
草丈(cm) (9月20日)	59.1	60.6	△1.5	59.9	59.5	0.4	64.4	63.2	1.2
生葉数 (枚) (9月20日)	24.5	25.1	△0.6	27.8	28.1	△0.3	23.3	21.4	1.9
茎葉重 (g/個体) (9月20日)	662	693	△31	741	800	△59	721	719	2
根重 (g/個体) (9月20日)	1040	1160	△120	939	1171	△232	861	906	△45
根周(cm) (9月20日)	35.3	35.7	△0.4	36.4	37.9	△1.5	32.0	33.6	△1.6
根中糖分 (%) (9月20日)	16.65	14.92	1.73	17.24	15.32	1.92	15.83	14.42	1.41

注) 平年値は前7か年中、平成22年(最凶)、26年(最豊)を除く5か年の平均。

8) 牧 草 (チモシー)

作 況：やや不良

事 由：1、2番草の合計乾物収量は平年比100%と平年並であった(前報)ものの、3番草再生時(2番草刈取後25日目：9月4日)の草丈は平年に比べ15cm低く、その後の気温は平年より低く推移している。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目		ノサップ		
		本年	平年	比較
草丈(cm)	3番草再生時	31	46	△15

注) 平年値は前7か年中、平成24年(最豊)、27年(最凶)を除く5か年の平均。

9) たまねぎ

作 況：平年並

事 由：枯葉期は概ね平年並であった。一球重は平年並で、総収量はやや上回ったものの、変形球等により規格内率はやや劣り、規格内収量は概ね平年並であった。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	オホーツク222			北もみじ2000		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
枯葉期 (月.日)	8.19	8.20	△1	8.24	8.26	△2
収穫期 (月.日)	8.29	8.30	△1	9.4	9.10	△6
総収量 (kg/10a)	7980	7731	249	7375	6976	399
規格内収量 (kg/10a)	6729	6821	△92	6587	6398	189
同上平年比 (%)	99	100	△1	103	100	3
規格内率 (%)	84	88	△4	89	92	△3
平均一球重 (g)	254	257	△3	237	231	6

注) 平年値は前7か年中、平成23年(最豊)、25年(最凶)を除く5か年の平均。